府立登美丘高等学校
校長　　山田　達也

令和８年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

めざす生徒像「登美高生は『強いから優しい＝Challenge and Hospitality』」
～「挑戦する強さがあるから、人を包む優しさを持てる～」

「全人教育（知識・技能だけでなく、人間性を調和的、全面的に発達させる教育）」という理念に基づき、創立 100 年をこえる歴史の中、多彩な人を社会に輩出し続けてきた高校として、「主体的な挑戦心」「自制心と回復力」「思いやりと気配り」を持った生徒を育成する。
授業・行事・部活動・地域連携などあらゆる教育活動を通して
１．学習と行事・部活動を本気で取り組む　２．希望する進路を実現する　３．地域から愛され信頼される　　学校を実現する

２　中期的目標

１．高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現
（１）　魅力ある教育課程の編成に注力し、同時に WEB サイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。
　ア　スクールブランディングチーム（SBT）が推進役を担い、学校の教育内容及びプロモーション活動の充実を組織的に進める。
　イ　スクールミッション・学校経営計画の実現状況・進行状況を、保護者・地域に、出来る限り早く正確に WEB サイト等を通じ発信する。
（２）「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む。
　ア　学力生活実態調査、授業アンケートを軸にした PDCA サイクル。－授業力向上 PT（TOMI プロ）が推進役を担い、授業観察シート・授業見学月間・研修による組織的な授業充実の取り組みを一層進める。
　イ　教師力（教科指導力＋人間力）を向上させる。　－「視覚化・構造化・協働化」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業展開
　　大阪府教育センター・教育産業との連携により、最新の教育課題への学びを深める。
　ウ　「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。－アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。
　　－発表の舞台を作る。（読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表、探究授業での発表など）
※学校教育自己診断（保護者）における「登美丘高校に進学させてよかった」の肯定率（R５:93%　R６:94%　R７：94%）を R10 年度には 95%以上をめざす。
※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（R５:88% R６:88%　R７:87%）を、R10 年度には常時 88%以上をめざす。
（３）進学実績の向上
　ア「授業・自学自習（≒グループウェアを使用した家庭学習支援の充実）・講習」の一体化と充実を図る。
　イ「自学力」の育成－もっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
　ウ「国公立志望・看護医療・公務員希望」－国公立進学希望者の進路を実現させるとともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。
　エ　学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた対応を進める。
※国公立現役合格者（ R５:７名　R６:４名　R７年：７名→R10 年度 10 名以上）＊３月 23 日現在
　関関同立・現役合格者（ R５:81 名　R６：56 名　R７年：86 名→R10 年度 82 名）をめざす。＊３月 23 日現在
２．「自制心・回復力、主体性・挑戦心、思いやり、気配り」　＝　左記の非認知能力の醸成を図る。
（１）「主体的・挑戦的に行動する心」を育成するとともに、「人を思いやることの大切さ」を実感させる。
　ア　生徒会活動の自主運営　　－学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。
　イ　自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進を図る。　－魅力的な外部社会人との接点を持ち、自己実現について考える機会を創出する。
　ウ　国際理解の推進　　－姉妹校・アメリカ「ケントリッジ高校」との国際交流（ホームステイ）の取り組みを充実させる。
　エ　人権尊重教育の取組み　　－多様な社会の中で、当事者との出会いを大切にした人権学習に取り組むことで、「思いやり・気配り力」の醸成を図る。
　オ　総合的な探究の時間の充実－自己理解を深め将来の生き方を考えるとともに、社会課題に問いを持ちその解決に向き合う学びを進めることのできる内容へと充実を図る。探究チーム（再結成）を立ち上げ、年間の総合的な探究の時間の計画を策定する。
※学校教育自己診断（生徒）「将来の生き方や進路について考える機会がある」の肯定率（R５:94%　R６:96%　R７：96%）を R10 年度までに 95%以上を維持。
※学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動ホームルーム活動は活発である」の肯定率（R５:88%　R６:89%　R７:90%）を R10 年度まで 90%以上を維持。
※学校教育自己診断（生徒）「人権や男女平等について学ぶ機会がある」の肯定率（R５:91%　R６:95%　R７:92%）を R10 年度まで常時 90%以上を維持。
（２）　教育支援体制の充実　　運営委後（週１回）、コアメンバーによるスクリーニング会議を実施、学年団会議などとの情報共有を密にする。SC・SSW との連携をはかり教育支援委員会においてケース会議を行うことで組織的な支援につなげる。
※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（R５:87%　R６:90%　R7:89%）を R10 年度には 90%以上を維持。
３．学校力を高める機能的な組織運営と地域連携
（１）機能的な組織運営
　ア　本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど「働き方改革」に取組む。
　イ　グループウェア、ICT を生かした機能的な校務運営に務める。
　ウ　学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。
※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等で PDCA が実施されている」の肯定率（R５:64%　R６:64%　R７ :67%）を R10 年度に 70%以上をめざす。
※年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員をゼロにする。
（３）　地域連携の推進
　ア「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭」などへの積極的な参加体制を構築する。
※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動など保護者地域の人々と関わる機会がある」肯定率(R５:61%　R６:54%　R７:59%）を R10 年度に 65%以上をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和７年　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立登美丘高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現	（１）魅力ある教育課程の編成に注力し、同時にWEBサイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。	（１） ア・スクールブランディングチーム（SBT）が推進役を担い、学校の教育内容及びプロモーション活動の充実を組織的に進める。 イ・教育課程委員会を中心に魅力ある教育課程編成について検討を行う。ホームページリニューアルにあわせて、ブログ記事配信、動画配信・LIVE配信を基本とする情報発信を行う。	（１）保護者「進学させて良かった」95% [94%]	
	（２）「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む	（２） ア・授業力向上PT（TOMI プロ）が推進役を担い、５月授業改善テーマ設定及び授業観察シートの策定・７月第１回授業アンケート・11月授業見学月間や研修・12月第２回授業アンケートなどを実施し、学校全体の組織的な授業力向上をめざす。学力生活実態調査に基づき、本校生のつまづき科目や単元を学校全体で共有・分析し、授業、進学指導にいかす。 イ・学校経営推進費で取得したICT機器等を有効利用し、授業・家庭でICT機器を使った学習を行う。 ウ・発表のある授業（英語プレゼン大会等）を充実させ、発表力を養う。	（２）ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」88%[87%] ・授業アンケート質問（知識や技能が身についた）学校平均3.40以上[3.45] ・生徒自己診断 「教え方に工夫」87% [86%] ・学力生活実態調査で AS：8%以上・CD：25%以下 [AS6.5%・CD26.9%] イ・　生徒１人１台端末の活用を推進。96%以上[96%] ウ・各教科プレゼンの取組みの内容を向上させる 「発表する機会」90%以上 [89%]	
	（３）進学実績の向上	（３） ア・「授業・自学自習（≒グループウェアを使用した家庭学習支援」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・「希望別進路指導」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 ウ・高大連携の一層の充実をはかる・ エ・探究チームを立ち上げ、総合的な探究の時間の充実を進める。	（３） ア・保護者自己診断「１時間以上の家庭学習」62%[61%] イ・進学実績 国公立現役合格８名以上 ［７名］ 関関同立現役合格者70名以上 ［86名］ 産近甲龍現役合格者180名以上 [270名] ウ・大教大コンソーシアム参加 エ・年間の総合的な探究の時間の計画策定（新規）	
２．「自制心・回復力、主体性・挑戦心、思いやり、気配り」＝左記の非認知能力の醸成を図る。	（１）「主体的・挑戦的に行動する力」を育成するとともに、「人を思いやることの」を実感させる	（１） ア・生徒会活動の自主運営に取り組む。 イ・自主自立育成のキャリア教育を推進する。 ウ・国際交流事業の実施。 エ・人権教育推進委員会において、３年間の計画を立て、当事者との出会いを大切にした人権学習に取り組む。	（１） ア・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」90%以上[90%] イ・生徒自己診断将来の生き方について考える機会がある 95%以上 [96%] ウ・交換留学事業の継続実施 エ・人権学ぶ機会 90%以上 [92%]	
	（２）教育支援体制の充実	（２） ア・スクリーニング会議、学年団会議において情報共有を密にし、 SC・SSWとの連携をはかり、教育支援委員会においてケース会議を行うことで組織的な支援につなげる。	（２） ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」90%以上[89%]	

府立登美丘高等学校

３　学校力を高める機能的な組織運営と地域連携	（１）機能的な組織運営	（１） ア・本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ、教職員一人ひとりの意識改革を推進、部活動方針に沿った取組など「働き方改革」に取組む。 グループウェアを導入、学年団と分掌等の連携強化を図り、業務効率化に取組む。 イ・グループウェア、ICT を生かした機能的な校務運営に務める。 ウ・PTA、同窓会との連携を強め、教育活動の充実を進める。	（１） ア・年間時間外在校等時間 720 時間を超えの教職員をゼロ。 教職員の時間外在校等時間の月平均を前年度より減少させる。[37ｈ71ｍ] イ・会議での ICT/ペーパーレスの継続 ・教職員自己診断 「情報交換」78%[77%] 「PDCA」68%[67%] ウ・PTA、同窓会との連携を強化。 ・保護者自己診断 「PTA 活動」80%以上[83%]	
	（２）地域連携の推進	（２） ア・地域活動への積極的参加「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し」、地域の活性化に貢献する。 イ・中高連携の充実をはかり、中学校とのクラブ交流などを積極的に行う。	（２） ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々と関わる機会がある」60%[59%] イ・中学校とのクラブ交流の機会　12 クラブ以上［11 クラブ］	